

3年生 67人が組立作業を体験

今宮工科高校で出前講座

関西鉄筋組合

関西鉄筋工業協同組合（岩田正吾理事長）は6月22日（金）、大阪府立今宮工科高等学校（大阪市西成区、高嶋保校長）で「出前講座」を実施し、建築系の3年生67人が参加しました。この出前講座は、組合が社会貢献活動の一環として生徒や学生たちに鉄筋工事の役割や重要性とともに、鉄筋の組立体験を通じてのものづくりの楽しさを知ってもらおうと2年前から行っているものです。

当日は組合から岩田理事長をはじめ田浦真一副理事長、中川六雄理事らのほか会員企業に所属する有資格者の職人6人が講師として参加し、生徒たちにハッカーの使い方や作業の進め方などをていねいに指導していました。

講座の冒頭、高嶋校長が生徒たちを前に「ものづくりを学ぶことは人の役に立つという価値の高いことを学ぶことだ。プロの技を学び、技能者の誇りを感じ取ってほしい」と挨拶。続いて田浦副理事長が「鉄筋は建物が出来上がってしまうと見えなくなるが、人の命を守る体の骨のように最も重要な役割を担っている。私たちは常にプライドを持って日々仕事をしているが、この出前講座で皆さんと一緒に作業をしていく中で、そうした職人の心意気を少しでも感じてもらえればうれしい」と挨拶しました。

この後、午前中の講座には建築設計専科の3年生45人が5班に分かれて受講。DVDを使った座学が続いて縦横800ミリ、高さ1750ミリの柱筋を地組し、これを2400ミリ間隔で3スパン分の壁筋を結束して組み立てる班（1～3班）と、2級検定用モデルの実物大を組み立てる班（4～5班）に分かれて作業を行いました。最初はハッカーをぎこちなく使いながら結束していた生徒たちでしたが、職人の指導を受けながらしだいに手際よく結束作業を進めていました。

午後の講座では建築専科の3年生22人が4班に分かれて同様の内容で鉄筋の組立作業を体験しました。講座を終えて生徒の代表が「鉄筋の結束という貴重な体験ができた。引き続き学校の授業もがんばっていきたい」と謝辞を述べました。

また、今回の出前講座には近畿地方整備局建政部の中野晋藏・建設産業調整官や大阪労働局職業安定部の五代儀昌幸・職業対策課雇用促進係長ら行政関係者のほか、東京都鉄筋工業協同組合と東京鉄筋工業協会の関係者が見学に訪れました。

※ 関西鉄筋工業協同組合からの参加、応援者は次の通り。（敬称略）

- ・ 岩田正吾理事長（正栄工業）▽田浦真一副理事長（田浦）▽中川六雄（中鉄）▽田村晃一（田村工業）▽富田勇（富田興業）▽恵谷信（恵谷鉄筋）
- ・ 岸本一広（富田興業）▽大沼満（中鉄）▽亀井研次（中鉄）▽田宮英明（田村工業）▽山下一成（田浦）▽松崎修二（田浦）

講座状況

